

2023年度 授業改善推進プラン(全体計画)

学校経営方針(学力向上に関わる要点)
<p>「進んで学ぶ人」(主体的に学び、協働して課題を解決する人)を育てるために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価規準及び基準とねらいを明確にした授業を展開し、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させる。 ・教材や指導法を工夫・改善したり、ICT機器を活用したりすることにより、個々の習熟度や特性に応じた指導を実践し、生徒一人一人の学力の伸長を図る。 ・「アクティブ・ラーニング」の視点に立った授業改善を行うことで、思考力・判断力・表現力等を育成する。

授業改善の重点
<ul style="list-style-type: none"> ・言語力の向上。 ・学習評価を通じた、個に応じた指導の充実。 ・ICT機器の効果的な活用による主体的・対話的で深い学びの実現。 ・発表する力の育成。

国語科	美術科	総合的な学習の時間の指導の重点	特別の教科 道徳の指導の重点
<ul style="list-style-type: none"> ・読書、語句の意味調べ、漢字テストなどを通して語彙力を身に付けさせる。 ・さまざまな文章を書く機会を設け、身に付けた語彙を正しく活用する力を育成する。 ・課題に沿って文章を読み深め、文章の内容を正確に把握できる力を育成する。 ・スピーチや話し合い活動等の意見発表、交流を行う機会を多く設け、さまざまなものの見方、考え方を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習において、作業手順を細分化し、スモールステップで表現する力を身に付けさせる。 ・友人の作品や世界の美術作品の鑑賞を通じて、多様な価値観を認め合うとともに審美眼を育てる。 ・自分自身と向き合い、表現の可能性を広げさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験的な学びの中で、生徒自身による課題設定と振り返りを行う。自ら学んだ成果や過程を意味づけ、評価することを通して、次の学びに生かせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決的・体験的な学習を取り入れ、議論や発表などの活動を通して、多様な見方・考え方に接し自己の生き方について考えを深めさせ、道徳的な判断力・心情・実践意欲と態度を育てる。
社会科	保健体育科		
<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚教材を利用して、視覚的に内容を理解できるようにする。また様々な資料や知識をもとに事象について考え、表現できる力を育成する。 ・積極的に資料や図、データ等を提示した上で、読み取らせたり、意見を交換させたりすることで、多角的な社会的事象についての見方や考え方を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・準備・補強運動、種目に応じた体ほぐしの運動を取り入れ、基礎体力向上を図る。 ・一斉指導で技能のポイントを理解させる際に、視覚的に分かりやすいように、見本を見せたり、視覚的教材を活用したりして理解させる。 ・ペアやグループで学習を進めていくことで、お互いの理解につなげ、思考判断や知識理解の定着と、意見やアドバイスをすることで言語能力の向上を図る。 		
数学科	技術・家庭科	特別活動の指導の重点	
<ul style="list-style-type: none"> ・課題に対して粘り強く考える場面をつくり、自らが納得して学習ができるようにする。 ・考えを発表する機会を設け、他者の考え方も学ぶことで自分の考えを深めさせる。 ・数学术語の意味を理解、把握させる。 ・基礎力は計算問題を反復練習することで定着させ、応用問題を通して、思考力を高める。 ・数学の対象に自らが進んで疑問をもち、主体的に学習ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先を見通して課題に取り組む力を養う。そのために、基礎基本の定着を図る。 ・どのような作業をどのような工程を経て行おうかの指示を明確にし、段階的評価、定期的な学習内容の確認を行う。 ・体験的な活動を通して、学習内容をより深められるような実習を実施する。さらに、ICT機器による映像教材の使用によって、より効果的な学習となるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年に2回、QUアンケートを実施し、いじめや不登校の早期発見・対応に生かす。学級活動では、協働的な活動に取り組み、多様な意見に接し、互いを認め合い考えを深め、学び合う集団を形成する。 	
理科	外国語科		
<ul style="list-style-type: none"> ・問題演習の時間を適宜設けることにより基礎的、基本的な知識・技能の定着を図る。 ・実験、観察において話し合い活動などを通し、課題を見つけたら、結果から事物、現象の規則性を導いたり、思考・判断・表現の力を育む。 ・課題に対する評価規準を明示し、目指すべき姿を明確にすることで、生徒の主体的に学習に取り組む態度を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1学年では、ペアワークやグループワークの時間を多くとり、状況・場面・設定に応じた表現力を育成する。少人数指導では、語彙や表現、基本文法の反復練習に取り組み、自己表現につながる基礎基本の定着を目指す。 ・2、3学年では、少人数指導の特性を生かし、個に応じた指導の充実を図り、基礎的・基本的な知識・技能を習得させる。 ・テーマを与え、興味・関心のある事柄について主体的に考え、自ら発信するコミュニケーション活動を充実させる。 		
音楽科			
<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の指導のねらいを示し、生徒の意欲、技能、表現力、個々の基礎能力を育成する。 ・視聴覚機器、グループ活動、実技、対話的学習等、学習形態を工夫し、学習内容を深める授業を実践する。 ・授業や行事での発表を通じ、表現力を育成する。 			

○価値ある対話の共有	○振り返りの設定	○ICT機器の活用
<p style="writing-mode: vertical-rl; position: absolute; left: -30px; top: 50%; transform: translateY(-50%);">本校の授業改善に向けて</p> <p>各教科等において習得する知識・技能を、「見方・考え」を働かせながら比較・統合・関連付け等を行い、自分の考えを広げられるようにする。生徒が根拠を基に多様な考えを述べ、他者との対話を通し、自分の考えを深められるようにする。</p>	<p>評価規準および基準を明確に示し、振り返りの時間を計画的に設ける。また、目標に準拠した形成的・総括的な評価を適切に実施することにより、生徒の学習状況を把握し、指導の在り方を見直し、授業や指導計画等の改善に生かす。</p>	<p>大型提示装置やChromebook等を効果的に活用する。互いの意見を即時に共有したり、全体傾向の把握や考えの比較・分類・整理を行ったりすることにより、学習内容の理解を深められるようにする。</p>